

第2回富山県高付加価値旅行者向けホテル誘致検討委員会

議 事 概 要

- 1 日 時 令和6年11月22日（金）9：30～11：00
- 2 会 場 富山県民会館 701 会議室
- 3 参加者 検討委員会委員
(西村幸夫委員長、麦野英順副委員長、清水久三子委員（オンライン）、
能作千春委員（オンライン）、桧垣真理子委員（オンライン）、
山川智嗣委員、山田拓委員、田中悟史アドバイザー)

4 次 第

- ・挨拶（蔵堀副知事）
- ・高付加価値旅行者向けホテルの先進事例について
 - (1) 福井県における事例【資料1】
 - (2) 奈良県における事例（奈良県観光局長 竹田博康氏）
- ・高付加価値旅行者向けホテル誘致に係る意見交換 《非公開》

5 議事概要

蔵堀副知事より挨拶後、事務局より「高付加価値旅行者向けホテルの先進事例」について説明。奈良県観光局長の竹田博康氏から奈良県における事例についてお話いただいた。その後高付加価値旅行者向けホテル誘致について、各委員による意見交換を行った。

（奈良県における事例）

【竹田局長】

- 奈良は南北に長く、平野部が県土の3割程度。人口の9割が平野に集中。南北の交通も課題。奈良も含めて人口は減少。こうした中どうやって地域を活性化していくか。
- 課題は、高付加価値なお客さんに来てもらいしっかり泊っていただくこと。外国人は、奈良公園に集中している。奈良公園のお客さんは、コロナの前はアジア系が多かったが、それ以降は欧米豪が増えた。来られる時間帯は朝10時には来て、6時には帰る。約7割はインバウンド。昼間の時間に集中すること、奈良公園に集中すること、これを解消することが課題。
- 県としては宿泊者数500万人という大きめの目標を立てている。宿泊者は300万人弱なので、倍近く。現状来訪者4000万人のうち、宿泊者は6%程度に過ぎないが、和歌山で約15%、富山で約10%ということを考えると、あながち無理なものでないかなど。
- 快適に過ごせる環境も大事。いかにゆっくり滞在してもらえるか。
- 今年になっていろいろ施策を考えている。来年、万博があるので、大阪観光局と5月に連携協定を結んだ。先日はJR東海と連携協定結んで、しっかりと東京からの送客にも取り組んでいきたい。

- データも大事。NTT 西日本、ソフトバンクと9月、10月に提携を結んだ。海外からのお客さんにどうリーチしていくか。どこから来ているのか、人流・購買のデータをしっかり分析したい。
- インバウンドの誘客強化は、海外のOTAの最大手エクスペディアと連携協定を結ぶ。よいホテル、受入れ側として地域をどう魅力的にしていくか考えていきたい。奈良は歴史文化があるので親和性の高い欧米豪の方を狙いたい。観光戦略本部を5月に立ち上げた。
- 奈良の北の方は大きなものを建てられるが、南は器大きいものは建てられないので、器にあった高付加価値なものを持っている。
- コロナ前の平成29年、宿泊施設客室数が奈良はワースト。富山はワースト10には入っていたが少し上。富山県では新幹線の効果か徐々には増加している。奈良も少しずつ増えている。奈良はなかなか高い建物を建てられないので、建物の数は多いけど、部屋数は少ない。富山はビジネスホテルが多い。器の大きなホテルが多い印象。新幹線開業にあわせて伸びたのかなど。奈良はビジネス需要がないので最下位。ゆったりできるリゾートホテルが少しできたが、富山は少ない。インバウンドも増えてくるとしたら、そこに注力していくのかなど。
- 行政は観光消費額が地域に落ちる工夫をしないといけない。民間の方ではラグジュアリーホテルをやってもなかなか進まない。行政の方には旗を振るとか、補助体系を作るとか、支援・環境の整備といったことが大事。
- 課題を踏まえて、奈良県では令和3年8月に補助メニューを創設。当初大きめのホテルに手を打つということで作ったが、南の方に目を向けるともう少しきめ細かい投資をしていただく環境も必要ということが見えてきた。最大2億円10%補助するものだが、5室でもよいということに変えた。外資系の事業者と話をしているとペイするには30室程度必要という感触だったが、最近南のほうでは、小さいホテルでオーベルジュ的にシェフを呼んでやるというのも増えてきており、そういったところもフォローできるようにしていくべきと判断した。
- 奈良では税や制度融資の制度も含めて支援。奈良公園では令和5年8月、旧知事公舎で、ホテル「紫翠ラグジュアリーコレクションホテル奈良」を作った。サンフランシスコ講和条約の調印の場は一般の方も見ることができる。客室数は43室。なんとかここに、いいものを持ってきて、奈良公園を評価していただくということでやった。1泊82万、その下が60万。よいサービスを提供している。
- 来年オープンする、奈良監獄のホテルは星野リゾートさんが手掛ける。独房9室を1つにまとめて実施。真ん中の第3棟は皆さんが入れる。客室は48室。
- コンベンション施設が奈良にはないが、コンベンションもでき、泊っていただける複合施設を作ろうということで、元々存在した県営プールを移管し整備した（JWマリオットホテル奈良）。PFIの手法を用いたが、元々県営プールと警察署があったので、一部はPFI、一部は売却、一部はNHKとして、効果を発揮できるよう整備した。県内GDPへの波及効果として、10年間で波及効果980億円、20年で1780億円、雇用の誘発は2000人を

超えるということで、相当大きな効果が得られるとして考えさせていただいた。ホテルとしては客室 158 室のキャパを持っている。

- JR 東海のホテルについて、こちらは駅前に来ていただけるということで、JR 東海さんとは協定を結んだ。山麓には小さいホテルも来て、借景を望みながら古民家ゆつくりと体験できる。シェフも入る。その他醤油の蔵を改装した事例、御所市の街並みを見れる事例とか、民間の方からも出て来たので、そういったところにも補助できるのではないかと思っている。

(質疑応答)

【西村委員長】

- 奈良公園のホテルについては、県の補助金も入っているか？

【竹田局長】

- 補助制度ができる前にできており、あの時はまだ入っていない。一部、利子補給等の支援は入っているところもある。

【山田委員】

- 1 つ目は生まれ故郷が奈良なので、宿泊者数の消費単価が 31,000 円で、宿泊者数が 500 万人だとすると、まだ 0.5% くらいで、残りの既存の施設を増やしていくとしても、かなりチャレンジングな目標。残りの部分をどうやって取り組んでいくのか。

【竹田局長】

- 知事がトップセールスを 11 月にもしたが、チームを作って色々なホテルの運営者などと繋ぐようにしたりしている。もう少し補助のメニューもバラエティーに富んだものにしていく必要がある。まだ目標に届かないが、不可能な数ではない。目標が小さかったら何も動かない。和歌山県さんの数を見ても、宿泊の数は遠い数字ではない。
- 県で来年度に向けてやっているのは、ナイトタイムエコノミーの取り組み。OTA で入ってくる欧米の人には、ナイトミュージアムとか、奈良には良いバーがあるので、夜 6 時に帰るのではなく。

【山田委員】

- 観光 D X 絡みでもデータを見ている。各地で古民家再生の宿を作る動きはあるが、高付加価値旅行者は、なかなか宿を作ってくるかと言えばそうではない。
- 新たな計画は、奈良の中心の大事な資源を使っている。富山も奈良も、観光従事者が少ないと、観光に対するウェルカム感が少ないと思うが、住民に対する反感などはどのくらいあって、それに対してどう対応されたか。

【竹田局長】

- 宿を作れば人は来るかというところではない。地域を磨く必要があって、磨くと同時にテーマを持って回っていただくブランディングをする必要がある。受入側でも若い人、地域を変える勢いをつける必要がある。我々の仕事としては、地域の方と対話して、地域がどう変わろうとしていて、それをどう助けるか。今まで観光というとふわっとしたプロモーションが多かったが、地に足をつけて、やっていく必要がある。「光を観る」のは、旅行者だけでなく、地域の人にも観られるようにしないといけない。
- 南の方へ行くと、汗をかいている方はいっぱいおられる。毎年お金出して自分たちでやっている。お寺さんがそんなことを言うてくださるのかと感心したが、「観光から信仰へ」と言っていた。